

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第4596080号
(P4596080)

(45) 発行日 平成22年12月8日(2010.12.8)

(24) 登録日 平成22年10月1日(2010.10.1)

(51) Int.Cl.		F I			
G 1 1 B	27/00	(2006.01)	G 1 1 B	27/00	D
G 1 1 B	20/10	(2006.01)	G 1 1 B	20/10	D
H O 4 N	5/765	(2006.01)	G 1 1 B	20/10	3 2 1 Z
			H O 4 N	5/91	L

請求項の数 3 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2009-183998 (P2009-183998)
 (22) 出願日 平成21年8月7日(2009.8.7)
 (62) 分割の表示 特願2008-227742 (P2008-227742)
 の分割
 原出願日 平成16年1月30日(2004.1.30)
 (65) 公開番号 特開2010-3403 (P2010-3403A)
 (43) 公開日 平成22年1月7日(2010.1.7)
 審査請求日 平成21年8月7日(2009.8.7)

(73) 特許権者 000005108
 株式会社日立製作所
 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
 (74) 代理人 100100310
 弁理士 井上 学
 (72) 発明者 米山 一人
 神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地
 株式会社日立製作所デジタルメディア開発
 本部内

審査官 宮下 誠

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 記録媒体及び再生装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

記録媒体に記録された映像音声コンテンツを再生する再生装置であって、
 前記記録媒体には、第1の画像音声コンテンツと、前記第1の画像音声コンテンツを識別するための第1の識別情報と、前記第1の画像音声コンテンツに関連した第2のコンテンツの取得先を示すURL情報と、前記第2のコンテンツを取得する第1の状態あるいは取得して出力する第2の状態のいずれかを示す付加データと、前記記録媒体を識別するための第2の識別情報が記録されており、

識別情報を記憶する記憶手段と、

前記記録媒体及び前記記憶手段から情報を再生する再生手段と、

ネットワーク通信手段と、

前記再生手段により再生したコンテンツあるいは前記ネットワーク手段により取得したコンテンツを出力する出力手段と、

前記再生手段およびネットワーク通信手段を制御する制御手段とを備え、

前記記憶手段は前記第1の識別情報と前記第2の識別情報とは異なる識別情報であって前記第2のコンテンツと関連した第3の識別情報が前記ネットワーク通信手段により取得された際に前記第3の識別情報を記憶するものであり、

前記制御手段は、前記再生手段により再生した前記付加データが前記第1の状態を示す付加データであるときには、前記付加データにより、前記ネットワーク通信手段を前記再生手段により再生した前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先に接続さ

10

20

せ、前記再生手段により再生した前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報を前記取得先に送信し、前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先から前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報に対応した前記第2のコンテンツを取得させ、

前記制御手段は、前記再生手段により再生した前記付加データが前記第2の状態を示す付加データであるときには、前記付加データにより、前記ネットワーク通信手段を前記再生手段により再生した前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先に接続させ、前記再生手段により再生した前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報を前記取得先に送信し、前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先から前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報に対応した前記第2のコンテンツを取得し前記出力手段より出力させることを特徴とする再生装置。

10

【請求項2】

記録媒体に記録された映像音声コンテンツを再生する再生方法であって、

前記記録媒体には、第1の画像音声コンテンツと、前記第1の画像音声コンテンツを識別するための第1の識別情報と、前記第1の画像音声コンテンツに関連した第2のコンテンツの取得先を示すURL情報と、前記第2のコンテンツを取得する第1の状態あるいは取得して出力する第2の状態のいずれかを示す付加データと、前記記録媒体を識別するための第2の識別情報が記録されており、

識別情報を記憶するステップと、

20

前記記録媒体及び前記記憶された識別情報を再生するステップと、

ネットワークを介して通信するステップと、

前記記録媒体より再生したコンテンツあるいは前記ネットワークを介して取得したコンテンツを出力するステップとを有し、

前記識別情報を記憶するステップは、前記第1の識別情報と前記第2の識別情報とは異なる識別情報であって前記第2のコンテンツに関連した第3の識別情報が前記ネットワークを介して取得された際に前記第3の識別情報を記憶するものであり、

前記記録媒体より再生した前記付加データが前記第1の状態を示す付加データであるときには、前記付加データにより、前記ネットワークを介して前記記録媒体より再生した前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先に接続し、前記記録媒体より再生した前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報を前記取得先に送信して、前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先から前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報に対応した前記第2のコンテンツを取得し、

30

前記記録媒体より再生した前記付加データが前記第2の状態を示す付加データであるときには、前記付加データにより、前記ネットワークを介して前記記録媒体より再生した前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先に接続し、前記記録媒体より再生した前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報を前記取得先に送信して、前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先から前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報に対応した前記第2のコンテンツを取得し出力することを特徴とする再生方法。

40

【請求項3】

記憶手段に情報を記録する記録方法であって、

第1の画像音声コンテンツと、前記第1の画像音声コンテンツを識別するための第1の識別情報と、前記第1の画像音声コンテンツに関連した第2のコンテンツの取得先を示すURL情報と、前記第2のコンテンツを取得する第1の状態あるいは取得して出力する第2の状態のいずれかを示す付加データと、記録媒体を識別するための第2の識別情報とが記録された記録媒体から再生された前記第1の識別情報と前記第2の識別情報を前記記憶手段に記録し、

前記第1の識別情報と前記第2の識別情報とは異なる識別情報であって前記第2のコン

50

テンツと関連した第3の識別情報がネットワークを介して取得された際に前記第3の識別情報を前記記憶手段に記録し、

前記付加データは、前記第1の状態を示す付加データであるときには、前記第1の画像音声コンテンツを再生する再生装置を前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先に接続させ、前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報を前記接続先に送信して、前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先から前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報に対応した前記第2のコンテンツを取得するために用いられるものであり、

前記第2の状態を示す付加データであるときには、前記第1の画像音声コンテンツを再生する再生装置を前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先に接続させ、前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報を前記接続先に送信して、前記URL情報で示される前記第2のコンテンツの取得先から前記第1の識別情報または前記第2の識別情報または前記第3の識別情報に対応した前記第2のコンテンツを取得し出力するために用いられるものであることを特徴とする記録方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、情報を記録又は再生する記録再生技術に関する。特に、サーバへ接続する通信手段を有する記録再生技術に関する。

【背景技術】

【0002】

音楽、ビデオなどのコンテンツは、CD、DVD(Digital Versatile Disc)のような記録媒体へ記録されて市場で扱われている。特に近年、映画コンテンツのDVDビデオには、メイキングビデオクリップ、ゲーム、近日公開予定の映画の広告ビデオクリップや、その他資料等であるサービスコンテンツが含まれることも多い。これらのサービスコンテンツは、時代によっては陳腐化することもある。

【0003】

そこで、最近では、記録媒体に記録されたコンテンツのID情報(以下、コンテンツIDと呼ぶ)を当該記録媒体に記録しておき、記録再生装置が、前記記録媒体を再生した際に、前記コンテンツIDをサービスサーバへ伝送し、前記コンテンツのIDに基いて検索された当該コンテンツの付加情報(例えば、音楽コンテンツであれば、歌詞の内容、歌手のプロフィール)を前記サービスサーバから受信し、当該付加情報を再生し、又は前記記録媒体などに記録する技術が提案されている。(例えば、特許文献1参照)

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2002-269900号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上記従来技術では、ユーザが伝送先のサービスサーバのアドレスを予め検索した上で、前記サービスサーバへアクセスし、前記コンテンツに関する付加情報を取得していた。

【0006】

しかし、ユーザがサービスサーバのアドレスを検索せずに、記録媒体に記録されたコンテンツに関する付加情報を取得することについては考慮されていなかった。

また、上記従来技術では、記録媒体に記録されたコンテンツIDから、識別情報を生成して専用のサービスサーバへ接続する必要があり、コンテンツ提供側の新たなサービス展開に対応することが困難であった。

また、上記従来技術では、記録媒体に記録されているコンテンツに関する付加情報であるが、前記記録媒体の所有者などが既に所有している付加情報でも、誤って取得してしま

10

20

30

40

50

うという課題があった。

【 0 0 0 7 】

本発明の目的は、上記従来課題を解決することを目的とする。また、使い勝手の良い、情報の記録再生技術又は記録媒体を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

前記目的を達成するため、本発明は、画像音声情報と、前記画像音声情報を識別するための識別情報と、前記画像音声情報に関するURL情報と、が記録された記録媒体とする。URLは、コンテンツ提供者等がサービスを提供するためのサーバのインターネット上での位置を特定するためのもので、インターネット上で一般的に利用されるため、本発明での説明を明確にするためURLと表記する。ただし、サービスを提供するサーバのネットワーク上の位置を特定できるものであればURLに限定するものではない。

10

【 0 0 0 9 】

また、画像音声情報と前記画像音声情報に関するURL情報とが記録された記録媒体を再生する再生手段と、前記再生手段により再生された前記URL情報に基づき、前記記録媒体に記録された画像音声情報を識別する識別情報を、前記URLを有するサーバへ送信する送信手段と、前記サーバから前記識別情報に対応する画像音声情報を受信する受信手段と、を有する再生技術とする。

【 0 0 1 0 】

また、コンテンツ情報を再生する再生手段と、前記再生したコンテンツ情報の識別情報を記憶する記憶手段と、前記記憶手段に記憶された複数の識別情報を送信する送信手段と、前記送信した複数の識別情報に関連する情報のうち、前記複数の識別情報の各々が示すコンテンツ情報でない情報を受信する再生技術とする。

20

【発明の効果】

【 0 0 1 1 】

本発明は、使い勝手の良い、情報の記録再生技術又は記録媒体を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 2 】

【図1】本発明の実施形態である再生装置とサーバの接続形態を示したシステム図である。

30

【図2】本発明の実施形態である再生装置で読み込むコンテンツの記録データ構成を示す図である。

【図3】本発明の第一の実施形態である再生装置と、サーバの処理フローを示す図である。

【図4】本発明の実施形態である再生装置とサーバにより提供される、サービス画面例である。

【図5】本発明の第二の実施形態である再生装置と、サーバの処理フローを示す図である。

【発明を実施するための形態】

40

【 0 0 1 3 】

以下、本発明の実施形態を説明する。

なお、本実施形態において、記録媒体は、DVDであるものとして説明をするが、本発明はこれに限らず、ハードディスク、MD(MINI DISC)、CD(CONPACT DISC)、磁気ディスク、半導体メモリなど、情報を記録する記録媒体に適用することができる。

【 0 0 1 4 】

先ず、図1は本発明を適用した一実施形態である再生装置とサーバの接続を示す構成図である。

図1において、再生装置100は、ネットワーク102を介してサーバ101、表示装

50

置 1 0 3 とつなげられる。表示装置 1 0 3 は再生装置 1 0 0 と一体式でも良い。再生装置 1 0 0 内のシステム制御回路 1 0 4 は、再生装置 1 0 0 の動作を制御する。

【 0 0 1 5 】

システム制御回路 1 0 4 は、CPUと管理用データベース（第 2 の実施形態で説明する）が記録されるメモリを持つデータベース制御回路 1 0 9 とで構成する。システム制御回路 1 0 4 は、再生のための各種装置や各種処理を制御し、また電源、周辺装置の状態を監視する。なお、データベース制御回路 1 0 9 が有するメモリは不揮発性メモリやフラッシュメモリでもよし、持ち運びが可能な光ディスク、磁気ディスク、光磁気ディスク、半導体メモリなどの記録媒体でもよい。

【 0 0 1 6 】

媒体制御回路 1 0 5 は、記録媒体 1 0 6 からのデータ読み出し制御を行う。再生制御回路 1 0 7 は、記録媒体制御回路 1 0 5 にて読み出したデータをもとに、表示可能な形式に変換をし、その他必要に応じて OSD (On Screen Display) を重ねて表示装置 1 0 3 へ出力する。ネットワーク制御回路 1 0 8 は、記録媒体 1 0 6 から読み出した URL や、予め機器に登録されている URL に従い、ネットワーク 1 0 2 経由でサーバ 1 0 1 へ接続し、データの送受信制御を行う。データベース制御回路 1 0 9 は、記録媒体 1 0 6 から読み出した、コンテンツ ID や、コンテンツ URL 等の情報をメモリへ登録し、管理する。

【 0 0 1 7 】

図 2 は、本発明を適用した一実施形態である再生装置で扱う記録媒体 1 0 6 に記録されたデータ構成例を示す図である。

【 0 0 1 8 】

記録媒体 1 0 6 は、ディスク ID 2 1 0 と、ディスク URL 2 1 1 を有する。図 2 において、2 0 0 はコンテンツ ID を示し、一般的には記録媒体に記録されたコンテンツに対しユニークな ID が与えられ記録されている。コンテンツ ID をサーバへ送信し、サーバ側がユーザのコンテンツを識別することでユーザに合わせた情報の提供に利用する。あるいは、サーバから受信した情報をもとに、再生装置側でコンテンツ ID 2 0 0 と照合して、ユーザへ重複情報等があれば提示する UI (User Interface) を実現できる。2 0 1 はコンテンツ URL を示し、コンテンツ提供側がサービスを提供するための接続先情報を記録する。2 0 2 は管理データを示し、以下に説明するコンテンツ等を管理するための情報を記録したものである。2 0 3 は主コンテンツを示し、例えば映画のコンテンツであれば本編の内容が記録されている。これは、画像音声情報である場合には、M P E G (Moving Picture Expert Group) 方式などにより圧縮して記録されている構成としてもよい。2 0 4 は副コンテンツを示し、例えば映画のコンテンツであればディレクターズカット (本編編集時に採用されなかったシーン集) やメイキング (本編撮影時や作成時の過程を記録したコンテンツ)、N G 編 (俳優のミスイクシーン集) 等が記録されている。2 0 5 はその他データを示し、コンテンツに関する付加情報等、コンテンツ特有のメニュー表示に使用されるデータや、メニューから選択して再生されるデータが記録されている。

【 0 0 1 9 】

なお、図 2 には、コンテンツが 2 つ含まれる場合の構成を示している。ディスクへ 1 つのコンテンツが記録されている場合と、2 つ以上の複数のコンテンツが記録されている場合がある。

【 0 0 2 0 】

図 3 は、本発明を適用した一実施形態である再生装置でのコンテンツ再生時と、サーバ接続時の処理フローを示す図である。(実施例 1)

図 3 (1) は、再生装置でのコンテンツ再生時とサーバへの接続の処理フローを示す。

図 3 (2) はサーバでの接続時の処理フローを示す。

【 0 0 2 1 】

図 3 (1) において、ステップ 3 0 0 で、記録媒体制御回路 1 0 5 は、記録媒体 1 0 6 からコンテンツ ID 2 0 0 読み込みを行う。

【 0 0 2 2 】

10

20

30

40

50

次に、ステップ301で、記録媒体制御回路105は、記録媒体106からコンテンツURL201を読み込む。その後、ステップ304にてシステム制御回路104が、記録媒体制御回路105が読み込んだデータから、再生制御回路107にて通常の再生処理を行う。

【0023】

ステップ305においては、システム制御回路104がサービスコンテンツを再生すべき又は取得すべき要求があるか否かを判断し、要求があると判断すると、ステップ306にてネットワーク制御回路108がコンテンツURL201で示される接続先へ接続する。

なお、サービスコンテンツを再生すべき又は取得すべき要求は、例えば記録媒体(図2中の205の領域等)にサービスコンテンツを再生すべきことを示す情報やサービスコンテンツを取得すべきことを示す情報を記録しておき、これを再生することにより判断する構成としてもよいし、ユーザに要求を入力させる構成としてもよい。

10

【0024】

次に、ステップ307にて、ネットワーク制御回路108がコンテンツID200をサーバ101へ送信し、ステップ308にてサーバ101より提供されるサービスコンテンツをネットワーク制御回路108が受信する。ステップ309では、ステップ308にて受信した、もしくは受信中のサービスコンテンツから、システム制御回路104が適宜再生制御回路107へ受信したデータを送り、サービスコンテンツを再生する。

【0025】

図3(2)において、ステップ310では、ステップ307にて再生装置100より送信されたコンテンツID200をサーバ101が受信する。

20

【0026】

次に、ステップ313では、サーバ101が再生装置100から受信したコンテンツID200により、既に送信すべきサービスコンテンツが登録されているか否かを判断する。もしサービスコンテンツが再生装置100に既に登録されているコンテンツIDに対応するサービスコンテンツと同じであるならば、サーバ101は、サービスコンテンツを送信しない。もし未登録であれば以下へ処理が移行する。

【0027】

ステップ311では、サーバ101がコンテンツID200に対応するサービスコンテンツを選択して、再生装置100へ送信するための情報を読み出し、又は生成する。その後、ステップ312にて、サーバ101がサービスコンテンツを再生装置100へ送信する。

30

【0028】

上記により、ユーザはサービスコンテンツを入手するために接続先URLの入力と言った、煩雑は操作を行うことなくサービス提供サイトへ接続することが可能となる。また、コンテンツ提供側は、コンテンツ毎に専用のサービス提供サイトのURLを設定して提供でき、コンテンツを購入したユーザ向けに特化した、使い勝手の良いサービスを容易に提供することが可能となる。例えば、ユーザの再生しているコンテンツが古いものであっても、再生している時期や、コンテンツの種別に合ったサービスコンテンツの提供が可能となり、何時でも時代や流行に合ったサービスコンテンツをユーザが利用できるのも、コンテンツ提供側のビジネス展開と、ユーザ側の使い勝手向上に貢献することができる。

40

【0029】

また、本実施形態では、記録媒体に記録されたコンテンツIDだけでなく、サーバへ接続するためのURL(Uniform Resource Locator)などの付加情報を読み込み、当該サーバへ接続する機能と、コンテンツIDを送信する機能を有することで、コンテンツ提供側が、ユーザに合ったサービス情報を判断して提供することが容易となる。

【0030】

次に、第二の実施形態について説明をする。本実施形態では再生装置でのコンテンツ再生時と、サーバ接続時の処理フローを説明する。

【0031】

50

図5(1)において、ステップ500では、記録媒体制御回路105が、記録媒体106からコンテンツID200読み込みを行う。続いて、ステップ501では、記録媒体制御回路105が、記録媒体106からコンテンツURL201を読み込む。実施例2では、ステップ502にて、データベース制御回路109が、コンテンツID200や、コンテンツURL201が、データベース制御回路109が有するメモリに記録された管理用データベースへ登録されていないと判断した場合に、ステップ503にて、データベース制御回路109が、データベースへの登録処理を行う。その後、ステップ504にて通常の再生処理を行う。

【0032】

その後、ステップ504、505の処理については、第1の実施形態である図3のステップ305、306と同様なので説明を省略する。

10

【0033】

ステップ506から509は図3におけるステップ306から309と同様であり、ステップ510からステップ512は、図3におけるステップ310から312と同様である。

【0034】

図5においては、ステップ505とステップ506の間に追加ステップとしてステップ520を実行することとする。このステップ520では、システム制御回路104が、サービスコンテンツを既に受け取ったか否かを判断する。もし既に受け取ったならば、ステップ506から508をスキップし、ステップ509にて、既に受け取っているサービスコンテンツを再生する。もし受け取ってなければ、ステップ506からステップ509を実行する。

20

【0035】

なお、前記管理用データベースに登録するコンテンツIDは、記録媒体106から読み出したコンテンツのコンテンツIDに限らず、ネットワークなどを介して取得したコンテンツのコンテンツIDを登録してもよい。また、ユーザがコンテンツIDを登録する構成としてもよい。このようにすることにより、ユーザが既に試聴したコンテンツや既に所有しているコンテンツをより多く登録しておくことが出来る。

【0036】

また、本実施形態では、再生装置がコンテンツID200をサーバに送信する際に、再生装置100は、前記管理用データベースに登録されている他のコンテンツIDをサーバに送信するような構成にしてもよい。

30

【0037】

そして、サーバ101は、前記他のコンテンツIDに関するサービスコンテンツも選択して、読み出し又は生成し、前記再生装置に送信する。これは、複数のコンテンツIDをサーバに送信する構成とし、前記装着されている記録媒体のコンテンツのコンテンツID200と他のコンテンツIDとを区別しなくてもよい。このような構成にすることにより、より多くのサービスコンテンツをサーバから送信でき、また再生装置側は受信することができる。

【0038】

また、サーバ101は、前記コンテンツID200に対応するサービスコンテンツを選択し、前記選択したサービスコンテンツを前記再生装置に送信する前に、前記他のコンテンツIDと前記選択したサービスコンテンツとの対応関係を検索する。そして、前記他のコンテンツIDのコンテンツに関するサービスコンテンツを送信しようとしている場合には、そのサービスコンテンツは既に前記再生装置に登録されているコンテンツIDのコンテンツ自体のサービスコンテンツであると判断する。そして、当該サービスコンテンツを前記再生装置に送信しないようにする。

40

【0039】

例えば、記録媒体106に映画の1作目が記録されており、コンテンツID200が1作目の映画であることを示しているとする。一方で、2作目の映画のコンテンツIDが既

50

に管理用データベースに登録されているとする。この場合、再生装置は、コンテンツID 200だけでなく、2作目の映画のコンテンツIDもサーバに送信する構成とする。

【0040】

そして、サーバ101は、コンテンツID 200に対応するサービスコンテンツとして映画の2作目についてのサービスコンテンツを送信するところ、既に再生装置100が2作目の映画のコンテンツIDが登録されていることから、2作目の映画についてのサービスコンテンツは再生装置100に送信しないようにする。これにより、既に再生装置に登録されているコンテンツIDのコンテンツ自体のサービスコンテンツを、サーバが再生装置に送信するのを低減できる。

【0041】

上記により、ユーザはサービスコンテンツを入手するために接続先URLの入力と言った、煩雑は操作を行うことなくサービス提供サイトへ接続することが可能となる。また、コンテンツ提供側は、コンテンツ毎に専用のサービス提供サイトのURLを設定して提供でき、コンテンツを購入したユーザ向けに特化した、使い勝手の良いサービスを容易に提供することが可能となるだけでなく、ユーザの所有しているコンテンツの情報を活用し、使い勝手の良いサービスコンテンツの提供が可能となる。これは、サーバの機能として提供しても良いし、再生装置の機能として提供しても良い。

【0042】

図4は、本発明を適用した一実施形態である再生装置とサーバの接続時のサービス画面を示す画面例である。

【0043】

図4において、400はネットワーク経由で提供される、コンテンツ購入サービスの画面例を示したものである。401はサービス画面のタイトルを示し、該画面のサービス内容を端的に表すタイトルが表示される。ここでは、コンテンツ購入サービス画面なので、「コンテンツ一覧」と表示されている。402はユーザが選択した項目について、購入するための画面へ遷移するためのボタンである。403は、サービス提供者が提供するコンテンツに関するタイトルの一覧を示す。404は、現在表示中の画面での操作説明表示を示す。405は、ユーザが既に所有しているタイトルであることを示すアイコン表示である。なお、ユーザ既に所有しているコンテンツについては、タイトル表示を行わないようにしてもよいし、サーバから受信しないようにしてもよい。

【0044】

406、407は、ユーザが購入するタイトルを設定するためのチェックボックスを示す。406が購入対象でないことを示し、407が購入対象となっていることを示す。

【0045】

このように、複数のコンテンツIDをデータベースに管理することで、従来は過去に利用したサイトに関してのみ利用できた閉じたサービスでも、本実施例によれば、どのサービスサイトであっても、ユーザが初めて利用する場合においても、上記のユーザにとって使い勝手の良いUIで利用できるようになる。また、コンテンツ提供側も、初めて利用するユーザに対しても、趣向に合わせたお奨めのタイトルを提示するサービス等も提供可能となる。

【0046】

なお、本実施例においては、再生装置が管理用データベースに登録している構成について説明したが、サーバが管理用データベースに登録する構成としても同様の効果を得ることが出来る。

【0047】

以上、本実施形態によれば、記録媒体に記録されたコンテンツIDだけでなく、サーバへ接続するためのURLなどの付加情報を読み込み、当該サーバへ接続する機能と、コンテンツIDを送信する機能を有することで、コンテンツ提供側が、ユーザに合ったサービス情報を判断して提供することが容易となる。また、上記コンテンツIDや、その他の付加情報をデータベースに登録管理することで、コンテンツ提供側が多様なサービス提供の展開に活

10

20

30

40

50

用できる。

【0048】

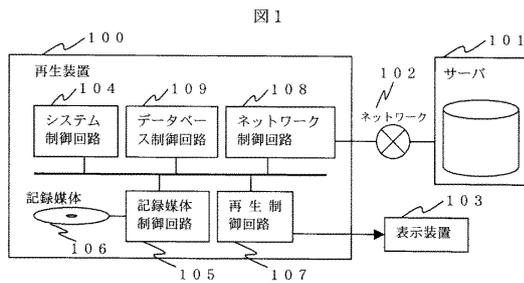
なお、再生装置100内の各回路は、電子回路としてのハードウェアに限定されることはなく、メモリ内にソフトウェアとして記憶しておき、システム制御回路104がCPUとしてこのソフトウェアを実行するような構成にしても良い。

【符号の説明】

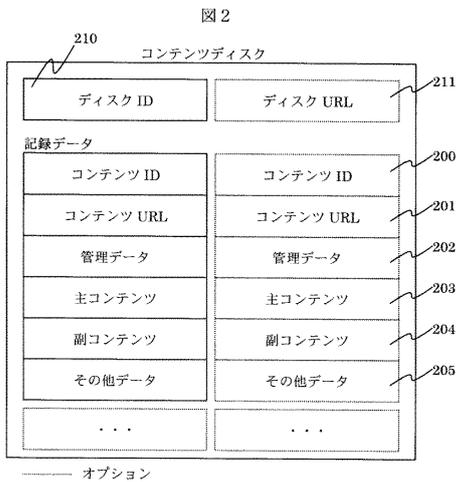
【0049】

- 100 再生装置
- 101 サーバ
- 102 ネットワーク
- 103 表示装置
- 104 システム制御回路
- 105 記録媒体制御回路
- 106 記録媒体
- 107 再生制御回路
- 108 ネットワーク制御回路
- 109 データベース制御回路

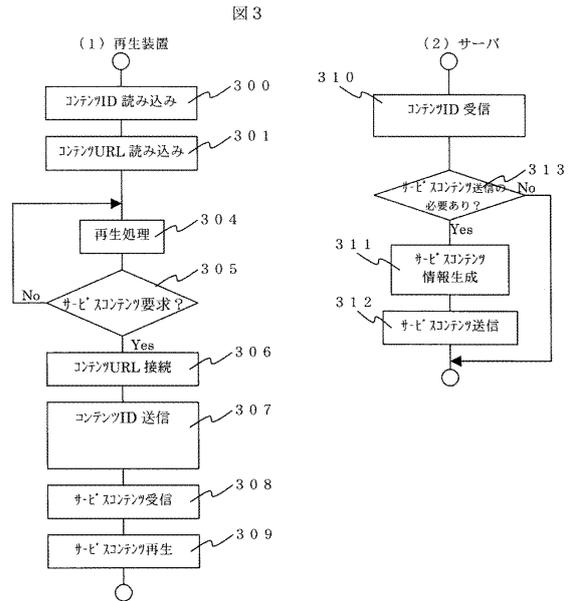
【図1】



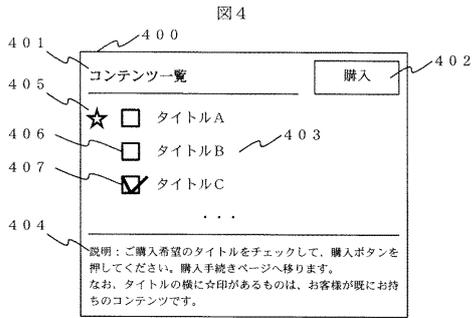
【図2】



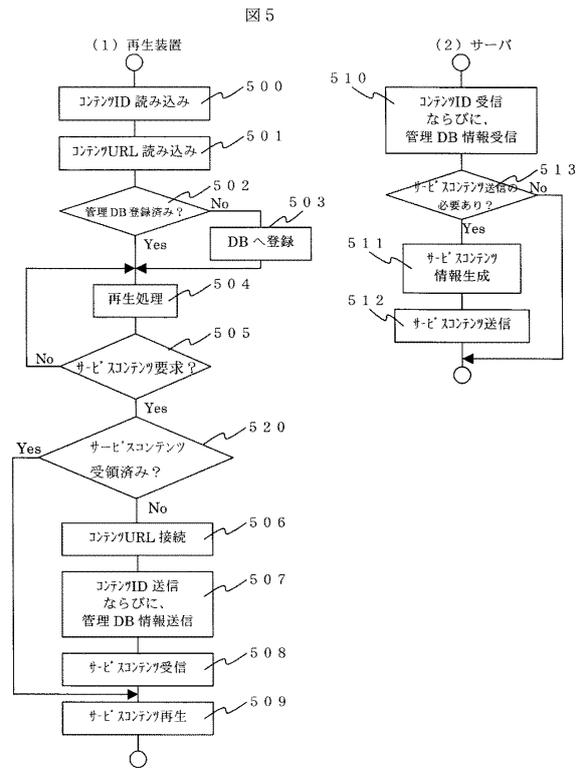
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平11-260045(JP,A)
国際公開第98/014942(WO,A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G11B 27/00

G11B 20/10

H04N 5/76

H04N 5/91